

歴史
history

アルネ・ヤコブセン
Arne Jacobsen 1902-1971

ハンス・J・ヴェグナー
Hans・J・Wegner 1914-2007

ヴィルヘルム・ウォレート
Vilhelm Wohlert 1920-2007


50 1949
北大西洋条約機構
(NATO) 加盟

ザチェア
【The chair 1949】
Yチェア
【Y chair 1950】



51

スチーム曲木加工
座面：ペーパーコード



既存の建物に家具をデザイン 図3

従来の構法
中国の椅子からインスピレーション
新素材

52

アントチェア
【Ant chair 1952】

ノヴォ治療ラボラトリウム
【Novo Terapeutisk Laboratorium 1935】

の増築部に造られた社員食堂のために設計された。

背と座を一体化→三次元成形


新成形方法

ザ・カウホーンチェア
【Cow horn chair 1952】

ヴァレットチェア
【Valet Chair 1953】

トライアングルチェア
【Triangle Chair 1952】

木のフレーム
座面：レザー



53

この家具のデザインをル
イジアナ美術館へ応用。
less-is-more ethos.

ルイジアナ美術館 (Vilhelm Wohlert and Jrgen Bo)
【Louisiana Museum of Modern Art 1958】
ルイジアナ美術館で使用されていた。

54 1950~1960年代
社会民主党系の政党
が政権を握る。戦後
復興が終わり、戦前
からの工業化継続と
発展を目指した。国
民の経済的平等が執
拗に追求された。

設計段階から家具をデザイン 図1

セブンチェア
【Seven chair 1955】

ロドオア市庁舎
【Rodovre City Hall 1956】

この市庁舎のために設計された。

改良版。成形技術、接着剤進化、
難しい形状、座り心地

ピアノチェア
【Piano Chair 1955】



56 工業発展→
輸出、生活水準↑

57

設計段階から家具をデザイン 図2
⇒トータルでデザイン

エッグチェア
【Egg chair 1958】

SAS ロイヤルホテル
【SAS Royal Hotel 1960】

スワンチェア
【Swan chair 1958】

家具、照明器具、カーテン、カーペット、テーブルウェア、
ドアノブ、水栓まで建築とインテリアのトータルデザイン
した。

ドロップチェア
【Drop chair 1958】

硬質発砲ウレタン、スチール、
レザー

スリーレグド・シエルチェア
【The Smiling Chair 1963】



同じ学校

59 1960
欧州自由貿易連合
に加盟

1913年(11歳) ネラム寄宿学校でフレミングとモーエンスのラッセン兄弟
と出会う。

1924年(22歳) デンマーク王立芸術アカデミーに進学。

建築家と共同制作 図4

1931年(17歳) ドイツ、家具職人H.F. スタルベアークのもとで家具職人修行。

1934年(20歳) コペンハーゲン、工芸職人学校へ

1938年(24歳) アルネ・ヤコブセンとエリック・ムラーがオーフス市庁舎のプロジェクトの
ために立ち上げた事務所に家具デザイナーとして採用される。

1944年(30歳) 中国の明朝時代の椅子に影響を受け、チャイナチェアシリーズの最初の作品
となる椅子をデザイン。

1944年(24歳) デンマーク王立芸術アカデミーに卒業。

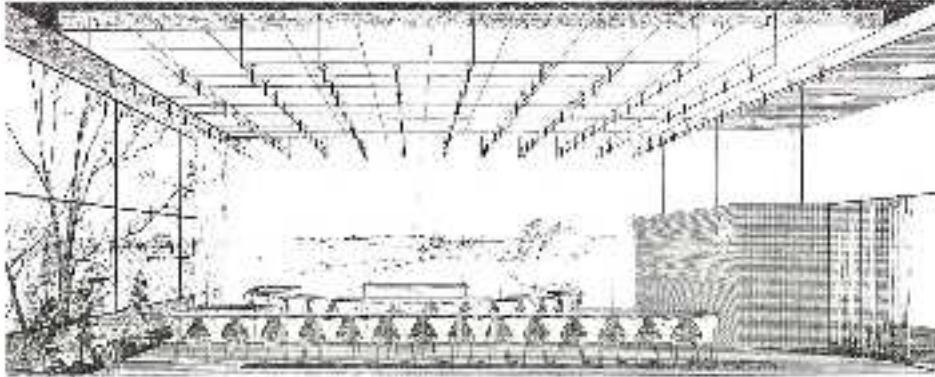


図1 ロドオア市庁舎【Rodovre City Hall 1956】
ヤコブセンのスケッチと建築写真。

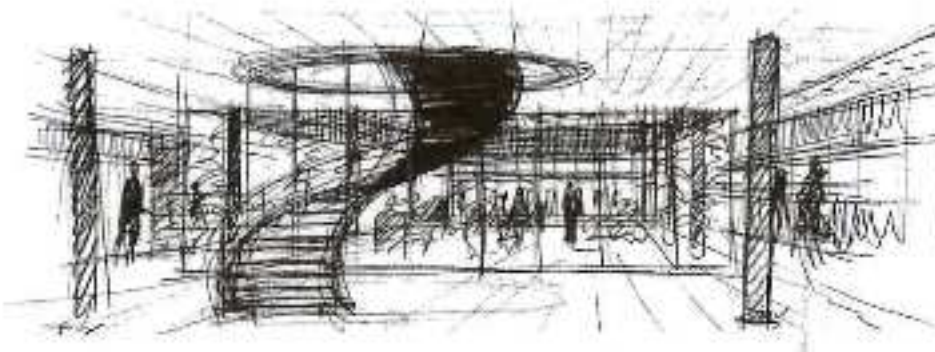


図2 SAS ロイヤルホテル【SAS Royal Hotel 1960】
ヤコブセンのスケッチと建築写真。



図3 ノヴォ治療ラボラトリウム【Novo Terapeutisk Laboratorium 1935】
増築部のレストラン。



図3 オーフス市庁舎【Aarhus City Hall 1942】
ヴェグナー設計の家具。